



TITLE:

緑藻で体の背側の大部分を覆われたミナミイワガニ(甲殻類)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 緑藻で体の背側の大部分を覆われたミナミイワガニ(甲殻類). 日本生物地理学会会報 2012, 67: 201-202

ISSUE DATE:

2012-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178707>

RIGHT:

© 日本生物地理学会

Bull. biogeogr. Soc. Japan
67. 201–202. Dec. 20, 2012

日本生物地理学会会報
第67巻平成24年12月20日

緑藻で体の背側の大部分を覆われたミナミイワガニ（甲殻類）

久保田 信^{1*}

^{1*} 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

Grapsus albolineatus (Crustacea) of which dorsal body parts are mostly covered by green algae

Shin Kubota^{1*}

^{1*} Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,
Kyoto University, 459 Shirahama town, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

Abstract. At Seto fishing harbor, Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan, an individual of *Grapsus albolineatus* (Crustacea) of which most dorsal body parts are covered with sea algae was found in early September, 2011. Such a rare encounter is only one occasion during the past ten or more years there.

Key words: *Grapsus*, green algae, harbor, carapace, Shirahama

（要約）

和歌山県白浜町瀬戸漁港の岸壁で過去10年余りの期間中（2012年7月まで）、緑藻で体をほとんど覆われたミナミイワガニに2011年9月初旬に初めて遭遇した。この1個体の行動には何ら支障はなかった。一度きりの出現であった。

はじめに

大形カニ類に付着生物が付いた例としては、和歌山県白浜産のイボショウジンガニ（武田・今原，2011 参照）に様々な付着生物が覆っていた記録があるが（久保田・山口，2000）、最近では瀬戸内海で多数のムラサキイガイがケフサイソガニの体の諸所に付着した報告があり（原ほか，2011）、これに関連した事象をその報告中で紹介した。今回、岩礁性のミナミイワガニ *Grapsus albolineatus* Latreille, in Milbert, 1812 に緑藻がびっしり付着していた稀少例に遭遇したので報告する。

材料と方法

過去10年余り（2012年7月まで）、和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸漁港の岸壁数百mに沿って、ほぼ毎日一回の生物観察を実施している。この港に岩礁性のミナミイワガニが出現することはほとんどない。ところが、緑藻のアオサ類で背側の体の大部分を覆われた1個体のミナミイワガニに遭遇した。それから10か月余り、本報告をまとめるまで、過去の観察よりも注意して目視調査を実施した。

*連絡先 (Corresponding author): kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

緑藻で覆われたミナミイワガニ



Fig.1



Fig.2

図 1, 2. 和歌山県白浜町瀬戸漁港で緑藻に体をほとんど覆われたミナミイワガニ（1 は水面下、2 は水中から外へ出た状態）。

Fig. 1, 2. *Grapsus albolineatus* of which most dorsal body parts are covered with sea algae at Seto fishing harbor, Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan. 1: underwater. 2: out of water.

結果と論議

2011 年 9 月 9 日 16 時半頃に瀬戸漁港で初めて緑藻で背側の体の大部分を覆われた 1 個体のミナミイワガニに遭遇した（図 1, 2）。その個体をその場で採集せず、その後のこの個体の出現と行動などの目視観察を続けた。瀬戸漁港への再出現はその後の 10 ヶ月余りの期間中、数百 m の岸壁のどの場所にも全く見られず、初回ただ 1 度だけの遭遇となった。

短時間の上記個体の観察では、海藻の付着したこのミナミイワガニ個体の動きはとてもすばやく、びっしりと生えた海藻が、水中でも水上でもこのカニの行動を抑制してはいなかった。上記個体より大小のミナミイワガニのごく少数個体が、最も内奥の岸壁のはほぼ同じ箇所にも出現したが、それらのどの個体の体のどこにも海藻は肉眼で見える限り付着してはいなかった。

アオサ類の成長は早いので、このミナミイワガニが脱皮する前に本個体が掃除できない甲で海藻はよく繁茂したのであろうが、脱皮したら

この海藻は脱皮殻とともに捨て去られる運命にある。そのような脱皮個体が漁港に再出現した可能性は、出現したミナミイワガニのサイズから判断していない。海藻の付いたこの 1 個体はどこかへ移動し、漁港にはもどらなかった可能性がある。

引用文献

- 原 竜也・鳥越兼治・久保田 信, 2011. 多数のムラサキイガイが生きたケフサイソガニの体の諸所に付着. 南紀生物, **53** (1): 85-86.
久保田 信・山口寿之, 2000. 多数の蔓脚類が着生したイボショウジンガニ（節足動物門、十脚類）. 南紀生物, **42** (2): 148-149.
武田正倫・今原幸光, 2011. 日本新記録のツブイボショウジンガニ（新称）*Plagusia immaculata*（甲殻類，十脚目，ショウジンガニ科）. 南紀生物, **53** (2): 115-118.

（2012 年 3 月 16 日受領，2012 年 8 月 8 日受理）